



2025年度

商工業振興に関する要望書

平素、苫小牧商工会議所の商工業振興への取組に関し、一方ならぬご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

地元企業を取り巻く環境は、歴史的水準に達した円安や消費者物価・エネルギー価格の高騰の影響、深刻さを増す人手不足など、依然として厳しい状況にあります。今後も先行き不透明な状況が続くことは覚悟しなければなりません。

コロナ禍を乗り越え、社会経済活動の正常化が加速するなかで、苫小牧の商工業振興が一層発展するために必要な事項を取りまとめましたので、令和7年度（2025年度）予算の編成に当たり、特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

2024年4月24日

苫小牧市長 岩倉 博文 様

苫小牧商工会議所

会頭 宮本 知治



目次

要望事項	関係機関			ページ
	国	北海道	苫小牧市	
1 重点要望事項				
(1) 「都市再生コンセプトプラン」と「駅周辺ビジョン」並びに「苫小牧市スマートシティ構想」に基づいた駅周辺再整備の推進			○	1
(2) 現下の状況を打開する早急な景気・経済・人手不足対策の実行	○	○	○	2
(3) 利便性向上に向けた道路・鉄路整備等の推進	○	○	○	3
(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備	○			4
(5) カーボンニュートラル社会実現に向けた取組の推進	○	○	○	5
(6) 次世代デジタル産業の一大集積地に向けた企業誘致の推進			○	6
2 新規要望事項				
(1) まちづくり・防災対策			○	7
(2) 利便性向上に向けた道路整備等の推進			○	8
(3) まちづくり・夜間における交通利便性の確保			○	9
(4) まちづくり・交通機関の利便性向上			○	10
(5) 苫小牧市の観光資源を活用した交流人口増加への取り組み推進			○	11
(6) 市内教育機関の環境整備推進			○	12
(7) 緑ヶ丘公園及び周辺施設の再評価と観光資源化			○	13
(8) 市内空き店舗情報の積極的な発信			○	14
(9) 地元中小・小規模事業者を支援する商工会議所の人員体制強化	○	○	○	15
3 継続要望事項				
(1) 苫小牧を支える企業への支援策	○	○	○	16
(2) まちづくり・防災対策	○		○	17
(3) インフラの整備(道路・港湾・空港・鉄道・電力など)	○	○	○	18
(4) 雇用・人材育成	○	○	○	20
(5) 交流人口の増加と観光振興		○	○	21
4 参考資料				22
5 部会別索引				24

要望件数

合計 65 件 [重点要望事項 6 件、新規要望事項 9 件、継続要望事項 50 件]
 ※昨年度 72 件 (AA、AB回答 15 件)

回答基準

実現性		実行速度	
A	実現可能、又は実行中	A	本年度中、又は来年度 2年以内
B	実現に向けて検討中	B	3ヵ年計画、又は3年以内に実行
C	検討する	C	長期計画、又は計画中
D	見通し不明、又は不可能	D	実行なし

1-1 「都市再生コンセプトプラン」と「駅周辺ビジョン」並びに「苫小牧市スマートシティ構想」に基づいた駅周辺再整備の推進

●要望事項

- 1 旧サンプラザビルに関する権利集約の早期実現
- 2 旧サンプラザビル・駐車場施設の公費投入も考慮した早期解体
- 3 都市再生コンセプトプランと駅周辺ビジョンの実現に向けた事業展開並びに基本計画案の早期策定
- 4 スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進

●目的と効果

《目的》

2014年の旧サンプラザビル閉鎖から10年ほどが経過しました。その間、苫小牧市は再整備に向け、様々な可能性を探り行動されておりますが、時間の経過とともに市民や経済界においても、閉塞感が広がりつつあります。

2021年3月に「苫小牧都市再生コンセプトプラン」が公表され、2023年3月に苫小牧駅周辺ビジョンが策定されるなど、次世代のまちづくりと未来の苫小牧駅周辺エリアの方向性が示されました。また、2023年には苫小牧市スマートシティ構想がとりまとめられ、事業化に向けて進み出しています。

これらの構想に基づいた駅前の再整備が推進されることで、「誇りと愛着が持てるまち」への前進が加速します。

《効果》

駅周辺以外の施設計画と連携した再整備構想が策定されることで、相互に人の流れが生まれるなど相乗効果が見込まれ、また、デジタル技術で暮らしや経済活動の利便性が高まり、拠点としてのまちなか形成が推進されます。

閉鎖から10年余りが経過した旧サンプラザビル



老朽化のため閉鎖された駅前バスターミナル



1-(2) 現下の状況を打開する早急な景気・経済・人手不足対策の実行

●要望事項

- 1 事業継続や挑戦する中小・小規模事業者に対する事業継続や経営力強化に対する支援
- 2 急激な物価上昇に対する負担軽減策の拡充
- 3 取引関係において立場の弱い中小・小規模事業者に対する価格転嫁施策の強化
- 4 中途採用合同企業説明会の拡充およびとまジョブの有効活用・周知推進

●目的と効果

《目的》

業種規模を問わずあらゆる事業者において、需要の減少、業績や資金繰りの急速な悪化、深刻さを増す人手不足など極めて厳しい状況が続いています。特に地域経済や雇用を支える中小・小規模事業者においては、将来の展望を抱けず、廃業を検討している事業者も数多くあります。

中小企業の事業継続にくわえ、本質的な経営課題解決と抜本的な経営改善が早期に必要であり、具体的には、事業継続・経営力強化に対する支援や成長を目指して挑戦する中小・小規模事業者の後押し、さらには安全・安心を確保した経済活動の再開支援が切望されます

《効果》

支援策を迅速かつ継続的に行うことにより、企業が外部環境の変化に円滑に対応することができ、事業の継続、雇用の維持が図られます。

自律的な地域経済の活性化、回復が可能となります。

1-(3) 利便性向上に向けた道路・鉄路整備等の推進

●要望事項

- 1 緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間に位置する高丘地区への4車線拡幅整備の推進（出口付近の4車線化早期整備）（P22 参考資料①）
- 2 市立病院前交差点の国道276号線（支笏湖通り）の3車線化または歩車分離式信号機の設置（P22 参考資料②）
- 3 災害対応道路として、国道36号線と臨海北通の接続道路新設の検討（P22 参考資料③）
- 4 通行車両の安全確保のための鹿対策の実施
- 5 新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上
 - ・JR新千歳空港駅と道南・道東方面の直通化（スルー化）の実現

●目的と効果

≪目的≫

- 1 2021年に開通した中央インターチェンジは、その高い利便性から交通量が増加しています。また、付近の沿道では土地利用規制が見直されるなど、今後更に交通量増加が予想されることから、緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間の高丘地区への4車線拡幅整備により、安全で円滑な交通が確保されます。
- 2 道道苫小牧環状線から国道276号線の緑跨線橋側への左折レーンは1車線しかなく、交差点付近は車線変更を行う車が混雑しています。歩車分離式信号の導入や、市立病院駐車場側への直進車線を左折も可能に変更するなどの対策を行うことで、混雑が解消・緩和され、自動車事故の減少や歩行者の安全が確保されます。
- 3 本市は、東西にかけて鉄路が走り、中野跨線橋から港跨線橋間の約4.2kmには鉄路をまたぐ方法がなく、いずれかの跨線橋に迂回して移動する必要があります。現在、海側には多くの製造業や物流関連企業が進出し、多数の従業員を抱え、さらに、臨海北通は交通量も多いことから、災害時における人と車両の鉄北方向への避難路を確保することにより地域の安全性が向上します。
- 4 近年、鹿の生息数の増加により鹿と車両の接触による交通事故が多発しております。特に勇払橋付近及び苫東地域の市道での出没が多く、また、街路灯の設置が少ないため、回避行動が遅れるといった意見を聞いております。鹿の捕獲活動や鹿対策の実施により、事故を未然に防ぎ安全の確保が期待されます。
- 5 2022年度の空港別旅客数は、新千歳空港が約1,787万人、中部国際空港が約601万人と、利用者が約3倍多いにも関わらず、鉄路のアクセスに関しては、新千歳空港から札幌方面には1時間あたり6本の設定に対し、中部国際空港から名古屋方面は6～8本の設定があるなどアクセスが悪く、インバウンドの旅行者の立席が目立つなど、既存路線体制の限界が現れています。また、コロナ禍前の2018年度には2,363万人の旅客数を記録するなど、今後の本格的なインバウンド回復による利用者の増加が見込まれ、新幹線の開通や次世代半導体工場やデータセンター建設と関連投資や開発が進むなどの需要増加が考えられます。道南、道東方面との直通化は、人と物の輸送力強化と観光に資する効果を全道各地に波及させますので、実現に向け関係各所への訴えを強く継続していただきたい。

≪効果≫

円滑な交通、利便性向上及び災害時における安心安全の確保が期待できます。

1-(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

●要望事項

- 1 東港区機能伸展のためのインフラ整備として
 - ・上下水道設備の充実及び強化 (P23 参考資料④)
- 2 周文ふ頭を含む苫小牧港東港区浜厚真地区の早期整備 (P23 参考資料⑤)
- 3 西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備 (P23 参考資料⑥)

●目的と効果

《目的》

- 1 東港区を含む安平川から東側のエリアは苫小牧市の給水区域に入っておらず、胆振東部地震の際には、断水復旧までに約1ヶ月の期間を要するなど、復旧を市が主導できない状況となりました。東港区のインフラ整備を行うことで、災害時の対応能力強化と物流機能維持が図られます。
また2020年6月から大型冷蔵冷凍倉庫が稼働し、同倉庫と連携した食関連事業の集積が期待されるなか、企業の進出を後押しし、付加価値の高い物流拠点形成の促進が期待されます。
- 2、3 公共埠頭では混雑が恒常化し、船舶の滞船や不必要な横持ち*が生じるなど、非効率な荷役を強いられており、北海道胆振東部地震においても、災害支援船が利用岸壁の変更や移動を余儀なくされるなど、岸壁の不足が深刻な状況となっております。
大規模自然災害等に備えた耐震・防災機能強化と荷役作業の効率化により、船舶の混雑・停船の緩和が図られ、物流コストの削減や港湾労働者の労働生産性向上、地域産業の競争力強化に繋がります。

《効果》

物流の効率化と苫小牧港区の更なる発展が期待できます。

※横持ちとは

- ・特定の場所に置かれた貨物を別の場所などに移動すること。
- ・混雑により、荷役事業者が希望するふ頭を利用できないケースが発生しており、離れたふ頭を利用しなければならず、目的地まで陸路での輸送を余儀なくされている。

1-(5) カーボンニュートラル社会実現に向けた取組の推進

●要望事項

- 1 カーボンニュートラル社会実現に向けたグランドデザインの早期策定及び、市民に対する理解向上に繋がる取組の推進
- 2 苫小牧市役所内へのカーボンニュートラル総合支援窓口（仮称）の設置
- 3 小規模レベルの再生可能エネルギーによるグリーン水素製造装置を配備
- 4 グリーン水素社会に呼応すべく水素ステーションを早急に市内に1か所新設
- 5 新たな公共交通機関として市営バスへのF C V導入
- 6 公用車のF C V化
- 7 民間投資を促進するF C Vトラック・F C Vフォークリフト等の導入補助制度の創設
- 8 エネルギーの安定供給確保に係る事業者への補助制度の継続
- 9 苫小牧の地域特性を生かした次世代エネルギー発電施設等の整備並びに送電網に係る事業者への補助制度の創設
- 10 原子力発電の速やかな再稼働に向けた対応を国・道へ強く要望
- 11 苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画並びにゼロカーボンを推進するために必要な支援の実施

●目的と効果

《目的》

苫小牧市は北海道の産業、物流の拠点であり、製油所や天然ガス、発電所、備蓄基地を有するなど、再生可能エネルギーを含めたエネルギーの宝庫であります。また、再生可能エネルギーや水素を製造できる地域は道内各地にあります。地域で消費できる適地はそう多くないため、再生可能エネルギーや水素の地産地消ができる、北海道随一の産業都市であると考えています。

苫小牧市第4次環境基本計画～第1期ゼロカーボン推進計画～において「産業全体でのゼロカーボンを目指し、環境と経済の好循環を実現」を目標に掲げており、カーボンニュートラル社会の早期実現が求められています。ついては、北海道における「産業・物流の重要拠点」である苫小牧市が、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、「脱炭素先行地域」として自覚を持った積極的な取組みを進めることが重要であります。さらに関連企業・研究所・実証実験等の誘致と地元企業の参入を進める必要があります。

以上のことから、上記事項について施策を推進するよう強く要望します。

《効果》

2050年脱炭素社会の実現に向けた取り組みが加速し、脱炭素の取組みを通じた産業誘致や企業間の連携、先進的なモデル地域となり、地域価値の向上、地方創生を実現します。

1-(6) 次世代デジタル産業の一大集積地に向けた企業誘致の推進

●要望事項

北海道、特に石狩から札幌・千歳・苫小牧にかけてのエリアが中心となり、次世代デジタル産業の一大集積地となるべく、苫小牧市の役割、機能、立地のそれぞれを最大限有効活用できる未来を模索し、関連施設及び産業誘致に向けて主体的に発信することを強く要望

●目的と効果

《目的》

当市や近郊地域において、次世代半導体工場やデータセンターの建設が進んでおり、北海道の提唱する次世代のデジタルインフラ集積を目指す「北海道データセンターパーク」や次世代半導体工場が提唱する「北海道バレー構想」の実現に向けた関連投資や開発が着々と進んでいるかと思えます。その中で、苫小牧市としての役割や立場を効果的に発信し、産業誘致に向けて、主体的に動いていただきたい。

《効果》

高付加価値の半導体やデータセンターなど IT（情報技術）関連企業の集積が進み、研究や人材育成が一体となった複合拠点が実現するなど、多様で革新的なデジタル関連産業の集積が進みます。幅広い産業の生産性の向上や高付加価値化、デジタルの活用による少子高齢化や担い手不足といった社会課題の解決に繋がるなど、当市が北海道・日本を牽引する地域になります。

2-(1) まちづくり・防災対策

●要望事項

- 1 広域連携（周辺自治体、民間企業・団体、自衛隊）による災害等対策体制の構築並びに訓練の実施
- 2 津波浸水想定に基づく津波対策の強化（津波危険区域に防潮堤や避難施設等の設置）

●目的と効果

《目的》

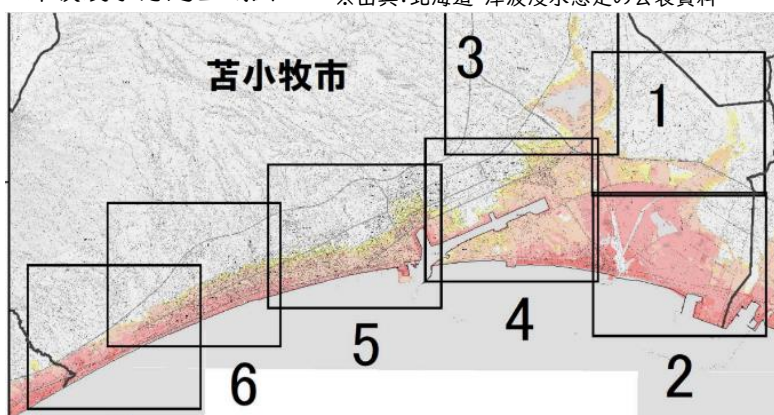
- 1 災害発生時は各団体等に対して、協定に基づいた災害対策出動が行われますが、それぞれが連携した総合的な訓練は実施していないと伺っています。2018年胆振東部地震の際には、国・道・町などから重複した出動要請が入るなど、情報が輻輳したと伺っておりますので、官民が連携した広域的な対策体制と日常的な訓練の実施が望まれます。
また、苫小牧市よりハザードマップや避難場所などの情報提供が行われていますが、多くの市民は突然の発災に対して効果的な避難行動や意思決定ができないのが実態でありますので、日常の訓練や防災意識の向上が急務だと思います。
- 2 2021年7月に北海道が公表した千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震に伴う津波による被害想定では、苫小牧は道内で最も広い浸水面積想定となっており、最悪のケースでは、冬の夕方に発生した場合に市内の死者が4万人と想定されています。また、千島海溝・日本海溝沿いの地域では約300～400年の周期で大津波を伴う巨大地震が発生しており、前回地震からすでに400年程度が経過している研究結果も発表されているため、いつ発生してもおかしくない状況です。
苫小牧市は東西に長く、南北方向への避難経路が限定されているため、垂直避難施設の設置や迅速かつ効果率的な避難経路の確立と周知が急務であります。
つきましては、近い将来必ず到来する災害に対して多くの命を救うために、迅速かつ計画的な対応を求めます。

《効果》

近年の突発的な災害に対して、避難・支援・復旧の場面で迅速に対応することができ、多くの命を救うことができます。また、安心して事業活動、市民生活を行えます。

津波浸水想定区域図

※出典：北海道 津波浸水想定公表資料



2-(2) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

●要望事項

1. 市道柏原開拓道1号線および東部2条通の安全対策の実施
 - ①路面舗装整備、②拡幅整備（片側2車線化）、③照明灯の設置もしくは街路灯設置
2. 新千歳空港と苫小牧市内を結ぶ道道130号新千歳空港線及び国道36号線の道路整備

●目的と効果

《目的》

- 1 市道柏原開拓道1号線および東部2条通は、苫東工業基地への進出企業の増加に伴う大型車両を含む交通量の増加により、路面の凹凸や陥没などの経年劣化が進んでおり、陥没部走行によるタイヤバースト、降雨時の対向車による水はねや降雪時の轍、路外逸脱・転落など車両の安全走行に支障をきたしています。特に東部2条通については、過去に路面陥没によるタイヤバースト事例も発生しています。

柏原開拓道1号線については、4年前から国道234号線からの約1km区間につき路肩拡幅工事が実施されてきましたが、今後の進出企業増加による交通量の更なる増加や自転車通勤者（夏季）の交通事故リスク低減なども考慮し、残りの約4分の3部分および東部2条通の路面整備と片側2車線化を要望します。

また、もともと片側2車線が整備される計画であったのに対して、片側1車線の対面通行で使用されており、電柱が道路からかなり離れているなど照明灯が設置されていない状況です。そのため夜間は非常に暗く、路面状況も確認しづらい状況にあることから、照明灯の設置もしくは街路灯の設置を要望します。

- 2 道道130号新千歳空港線及びに国道36号線は、北海道の玄関口である新千歳空港と苫小牧市内を結ぶ道路であり、交通量が多く、凸凹や陥没など路面環境が悪い状況です。特に道道130号線は周囲に何も無い区間であり、街路灯などもほとんど無く、真っ暗で路面状況が見えにくい状態です。今後、次世代半導体製造工場や関連産業の集積が進んだ際に、交通量の増加をはじめ、精密機器などの輸送が想定されますので、国や道に対する働きかけを要望します。

《効果》

円滑な交通、利便性向上及び災害時における安心安全の確保が期待できます。



※出典：苫小牧市道路台帳簡易閲覧サイト

No.25007、25010 担当部会：地域振興委員会

2-(3) まちづくり・夜間における交通利便性の確保

●要望事項

夜間における交通利便性の確保
繁華街における交通手段確保への支援

●目的と効果

《目的》

苫小牧市においてはバスの運転手不足などの影響により、路線バス等の減便が進んでおり、錦町等繁華街の夜間においてはタクシーに頼らざるを得ない状況となっております。しかしながら、タクシーにおいても運転手不足をはじめ高齢化が進んでいて十分な台数が確保できていない状況となっており、繁華街に店舗を構える飲食店においては集客の妨げの要因になっているのが現状です。

夜間のバスの増便、タクシー台数の増加など繁華街における交通手段を充実するため、バスやタクシーの人材確保への採用支援等をお願いしたい。また、自動運転バス本格運用に向けた整備についても注力いただきたい。

《効果》

交通利便性向上による錦町等繁華街飲食店の活性化が期待できます。

2-(4) まちづくり・交通機関の利便性向上

●要望事項

- 1 東西バランスの取れた発展のための交通施策の検討
(東部－中心部－西部間のアクセス向上)
- 2 次世代型路面電車（L R T）など新たなモビリティ導入の可能性検討

●目的と効果

《目的》

- 1 東部の商業施設集積や苫小牧東部工業団地への企業進出により、苫小牧東部地域の人口増加や土地価格の上昇が進んでいます。また、千歳市へのラピダス進出などにより、今後も市東部への住宅・商業施設の集中が加速することが予想されます。一方、西部及び中心部では高齢化とともに居住人口の減少や空き地・空き店舗などの増加による商業機能の衰退、賑わいの減退など、経済的・公共的な役割が低下しております。
以上のことから、バランスの取れた市街地の発展のため、中心部・西部地域の再発展に必要な交通施策の策定を望みます。さらに、苫小牧市東部工業団地・道央圏の発展を取り入れるべく、東部地域から中央・西部へのJ R・バスのアクセス性向上を求めます。
- 2 人口減少と少子高齢化による利用者減少や運転手不足、路線廃止やサービスの縮小が進むなど、当市においても公共交通機関の維持確保が喫緊の課題になっています。また、自動車への依存度が高まる一方で、輸送効率や環境負荷低減、安全対策など社会情勢の変化への対応も求められています。
L R Tは都市内交通機関として、欧米を中心に多くの都市で積極的に導入されており、国内でも富山市や宇都宮市で導入され、多くの自治体が導入を検討しています。
既存交通網の変更や改変だけでなく、大量輸送機関として脱炭素や快適性に優れ、まちづくりとの連携が可能であるL R Tなど、次世代のモビリティや交通システムの導入を検討していただきたい。

《効果》

当市や近郊地域において次世代半導体工場やデータセンターの建設が進んでおり、東部地域の発展が加速する一方、西部・中心部の商業機能や賑わい、経済的な機能が鈍化しており、様々な機能の差が開くばかりとなっております。

以上のことから、東部地域の経済効果を中心部・西部の波及させるため、千歳方面からのエアポート延伸や東部－中心部－西部間のシャトルバス運行など、J R・バスのアクセス性向上を求めます。

アクセス性向上を図ることで、東部方面への勤務者の定住に繋がり、東西のバランスの取れた街の発展に期待する。

2-(5) 苫小牧市の観光資源を活用した交流人口増加への取り組み推進

●要望事項

ワーケーション・ブレジャー等、滞在者の市内観光及び、市内での消費行動への誘導

●目的と効果

《目的》

コロナを契機に生活スタイルや働き方が見直されたことで、ワーケーションが日本でも広がりを見せており、市内宿泊施設やオートリゾート苫小牧アルテンにおいても、市外から多くの利用者がいます。また、ブレジャーという新たな取り組みも先進企業では始まっており、この様な流れを取り込むことも必要だと考えられます。

これを契機と捉え、本市の観光スポットや商業施設へ誘導するための交通手段を確保するなど、市内の経済効果を高め、移住にも結び付くような取り組みを要望します。

※ワーケーションとは：Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。

テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

※ブレジャーとは：Business(ビジネス)とLeisure(レジャー)を組み合わせた造語。

出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。

《効果》

昨今キャンプブームにより、市外からのアルテン利用者が増加している。交流人口増加による経済効果をアルテン以外にも波及させるため、アルテンから市内商業施設や観光スポットへ誘導(移動)し易くなるための交通手段(アクセス)を改善することで消費行動を活発になり、市内の経済効果がより高まる。

2-(6) 市内教育機関の環境整備推進

●要望事項

市内小学校 保健室へのエアコン導入

●目的と効果

《目的》

苫小牧市の経済を支える子育て世代が安心して働くためには、子どもの安心・安全な教育環境が必要不可欠と考えられます。昨年は記録的な猛暑となり、北海道の伊達市で熱中症による児童の死亡という大変痛ましいニュースがありました。これを受けて苫小牧市では市内小中学校への移動式の冷風機560台の導入が決定し、保健室にも1台ずつ追加購入する考えをお持ちとのですが、より確実に子供たちの生命を守るために救護体制を整える必要があります。

つきましては、市内小学校の保健室へのエアコン導入を要望し、迅速かつ確実な救護体制を整えていただきたく存じます。

《効果》

苫小牧の将来を担う子供たちの命と健康を守ることは、子育て世代が安心して働ける環境づくりにつながります。

2-(7) 緑ヶ丘公園及び周辺施設の再評価と観光資源化

●要望事項

緑ヶ丘公園及びハイランドスポーツセンターなど周辺施設群の再評価と観光資源化

- 1 緑ヶ丘公園及び周辺施設群の魅力を磨きなおし、市内外へ発信すること
- 2 滝野すずらん丘陵公園をモデルとした緑ヶ丘公園及び周辺施設群の観光資源化

●目的と効果

《目的》

緑ヶ丘公園は市内中心部より近く、周辺の運動施設とともに多くの市民が利用するスポットとなっています。また金太郎池のボートやレストハウス、パークゴルフ場、各種遊具、ローラーコースターなど家族連れが自然に囲まれつつ、豊かな時間を過ごすことができる魅力あふれる空間です。

また、周辺にはハイランドスポーツセンターや、展望台など観光資源になりうる可能性を秘めた施設が点在していますが、あくまでも市民向けという前提から、市外から人を呼び込む視点での整備や周知が行われていないのが現状です。

近年、中央インターチェンジ建設により、市内外からの交通アクセスが改善され、市外近郊都市からのアクセス性が飛躍的に高まりましたが、その効用を同地域の活性化へ関連付けて活用されているとは言い難い状況です。

苫小牧市は1966年に全国に先駆けて「スポーツ都市宣言」を行い、街づくりに活かしてきました。私達は市内外の人々が集い、人々が一年中体を動かすことの出来る環境整備を進めつつ、魅力の磨きなおしへの取組とPRを進めることで、緑ヶ丘公園及び周辺施設を、観光の目的地へと変貌させ、観光客誘致・交流人口の増加に資する観光資源にすることが可能だと考えます。

身近なモデルとして、札幌市には国営滝野すずらん丘陵公園があり、周辺地域から多くの人が通年を通して訪れています。(約60万人/年)

《効果》

「緑ヶ丘公園」の観光資源化は、観光客誘致、交流人口の増加に寄与し苫小牧の新しい可能性を切り開きます。

2-(8) 市内空き店舗情報の積極的な発信

●要望事項

苫小牧市商店街振興組合連合会の調査した情報以外の市内空き店舗情報を積極的に収集し、苫小牧市ホームページ以外にも機関紙や冊子、SNS等で情報を発信することを強く要望します。

●目的と効果

《目的》

創業者や新規事業展開が増えている現状と、市内空き家・空き店舗が多く見える現状を踏まえて、店舗として使える建物情報を収集し発信することで事業者の市内出店促進が図れます。

《効果》

空き店舗の貸し出しを希望するオーナーの発掘と市内事業者出店数の増加によって、空き店舗問題が解消され、地域活性化に寄与します。



群馬県桐生市
市のホームページに空き店舗情報を掲載
登録物件の活用で基本補助金に加算される



宮城県登米市
市のホームページに空き店舗情報のほか、
空き工場、空き倉庫情報なども掲載

2-(9) 地元中小・小規模事業者を支援する商工会議所の人員体制強化

●要望事項

- 1 【国・道】小規模事業指導推進補助金の安定確保
- 2 【国・道】小規模事業指導推進補助金・補助対象職員設置基準の見直し
- 3 【苫小牧市】上記1、2について「国・道及び関係機関に対する重点要望事項」への採用
- 4 【苫小牧市】苫小牧中小企業相談所補助金の増額

●目的と効果

《目的》

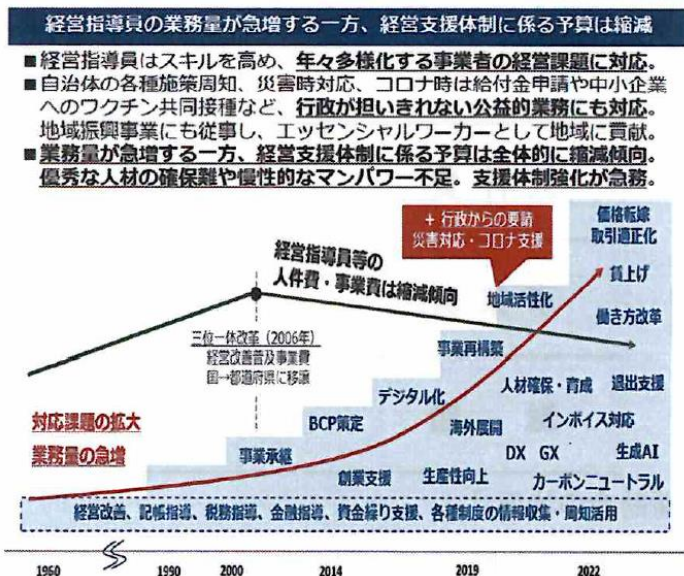
近年、中小・小規模企業が直面する経営課題は、多様化・複雑化する傾向にあり、国・地方自治体においてもそれら政策課題に対応すべく、施策の高度化・複雑化が進んでいます。

商工会議所は地元企業との接点として、国・地方自治体の政策実行を助け政策効果を高めるべく、連携・連動した企業支援の担い手として多くの役割を果たしていますが、役割を担保する商工会議所の人員体制については顧みられることはなく、自助努力による維持存続を求められ続けています。

雇用の大半を抱える地元中小・小規模事業者が新しい時代へ適応し、自己変革に取り組むためには、そのために活動する商工会議所の人員体制の維持・強化が欠かせません。

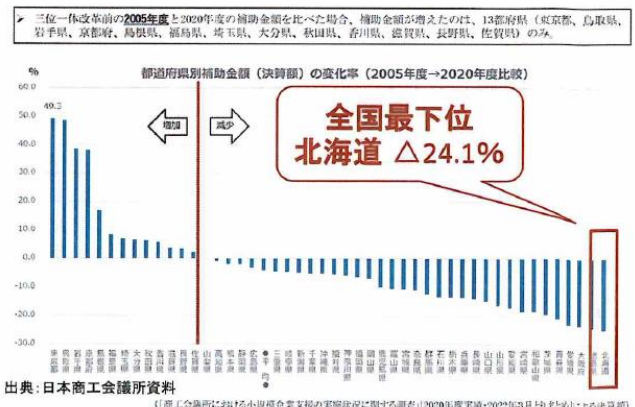
《効果》

地元企業を支える商工会議所の人員体制維持・強化は、挑戦する余力生み出し、変革を遂げようとする中小・小規模事業者を支えると共に、国・道・市の政策実行を助け、政策効果を高めます。



【北海道】 補助金額の変化率

- ・三位一体改革前の2005年度と2020年度を比べた場合、補助金が増えたのは13都府県
- ・北海道は、全国最下位のマイナス24.1%
- 全国的には、増加傾向にあるものの、北海道は全国でも低位が続く



3-(1) 苫小牧を支える企業への支援策

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20033	公共事業予算枠確保	建設業部会	A	A
20034	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	建設業部会	A	A
20035	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と物価変動に対応した発注金額の適正化	建設業部会	A	A
20036	地元企業への優先発注並びに地元受注率の向上	建設業部会	A	A
20038	指定管理者に対する地場活用の推進	製造業部会	A	A
20043	日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店昇格	会議所	B	A
20046	苫小牧市中小企業創業サポート事業補助金の拡充	会議所	A	B
20084	北海道開発にかかる枠組みの堅持	建設業部会	A	A
22002	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	食品飲食業部会/ 商業部会	A	A
23008	地産地消に取り組む事業者への支援	食品飲食業部会	D	D

●目的と効果

苫小牧地域を支える企業への各種支援策により、持続的に発展できる環境の維持、整備が可能となり、急激な外部環境の変化に対応するための素地が維持されます。

3-(2) まちづくり・防災対策

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20027	多文化共生社会の実現へ向けた施策の推進	食品飲食業部会	A	A
20050	ゼロカーボンシティ実現に向けた、商店街等の街路灯・防犯灯入れ替えに伴う補助金等の「ゼロカーボン推進支援補助制度」の創設	商業部会	A	B
20055	勇払前浜地区の整備活用	地域振興委員会	B	B
21009	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	会議所	B	C
21012	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィス及び教育機関の誘致と移住の促進	食品飲食業部会	C	C
21013	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	食品飲食業部会	B (政策) C (港湾)	B (政策) C (港湾)
21016	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み推進	食品飲食業部会	A	A
23001	苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画の策定	商業部会	C	C
23002	苫小牧駅周辺への保育施設の拡充	商業部会	D	D
23003	バス停留所の環境改善	商業部会	B	C
23017	ベンチマーク設定による、ふるさと納税への取組改善	青年部	A	A

●目的と効果

生活基盤を支える商店街やコミュニティの維持・存続に関する支援体制の拡充、強化により、持続可能で、災害に強く、東西バランスを考慮したまちづくりの推進が期待できます。

3-(3) インフラの整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20010	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)・踏切の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	運輸交通部会	B	C
20011	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	運輸交通部会	B	C
20057	苫小牧停車場若草道線の一方通行の解除に向けた働きかけの推進	運輸交通部会	B	B
20058	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	運輸交通部会/ 建設業部会/ サービス業部会	B	C
20059	美沢錦岡通の早期整備	建設業部会/ 運輸交通部会	B	C
20060	臨海東通の早期整備	建設業部会/ 運輸交通部会	B	C
20062	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	建設業部会/ 運輸交通部会	C	C
20069	新千歳空港の発着枠拡大に対応した受入体制の強化並びに利便性の向上(2次交通アクセスの充実)	地域振興委員会	B	C
20070	新千歳空港の滑走路延長の早期実現	地域振興委員会	B	C
20075	苫小牧東部地域の特性を活かし、苫東GXHUB構想の実現にむけ、「エネルギー・デジタル・フード」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援 (エネルギー・デジタル・フード・物流・ドローン・自動走行関連事業、地域マイクログリッド事業、CCUS事業)	地域振興委員会	C	C
20077	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	地域振興委員会	C	C
20088	函館税関コンテナ検査施設(X線検査場)の東港区での早期設置	運輸交通部会	C	C
20091	東港区・西港区のうねり対策に関する関係機関への要請の強化	運輸交通部会	C	C
20093	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	運輸交通部会	C	C
20094	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	建設業部会/運輸交通部会	B	C

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20095	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	建設業部会/運輸交通部会	B	C
20113	様々な国際大会の開催を視野に入れたアイスアリーナや体育館等のスポーツ施設の国際規格化および周辺環境整備	建設業部会	B	C
20121	明野南通の6車線化及び、道路の整備	運輸交通部会	C	C
22004	国道36号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置	運輸交通部会	C	C
23010	物流車両の安全確保のための整備 市道の管理強化 街路灯の増設(一本松北通)、道路標識の整備、新規設置、街路樹や草木の剪定・伐採	運輸交通部会	A(緑地、維持) C(市民、港湾)	A(緑地、維持)C (市民) D(港湾)
23013	市道沼ノ端勇払線の安全対策の実施 1. 拡幅整備 2. 路面舗装整備	地域振興委員会	B	C

●目的と効果

市や関係機関への働きかけを強化することにより、インフラ整備が促進されます。

3-(4) 雇用・人材育成

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20004	職業訓練法人苫小牧地方職業能力開発協会への協力支援	運輸交通部会	B	B
20012	介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実 飲食業や一次産業に係る専門教育支援の充実	食品飲食業部会	D	D
22007	おおぞら園への予算配分増額、人員体制強化など機能拡充への取組	青年部	A	A
23015	保育・介護環境整備による女性の社会進出推進 介護・保育に関する人材教育支援制度の充実	女性会	C	C

●目的と効果

生産人口の減少により、深刻な人材不足が喫緊の課題であり、雇用の安定・拡大、地元人材の育成・確保、地元人材育成に必要な施設の維持などが強く求められることから、各種施策の推進により、多様な人材確保と育成ができる環境整備が可能となります。

3-(5) 交流人口の増加と観光振興

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当	回答/ 実現性	回答/ 速度
20007	統合型リゾート誘致活動の継続 北海道と連携したIRコンセプトの策定	地域振興課	D	C
20009	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの 推進	地域振興課	D	C
20105	地産地消の推進にかかる事業への支援	事業推進課	A	A
23019	市内大規模イベントへの民間活用の推進	総務課	C	C

●目的と効果

自然・食・文化・産業などの地域資源を活かし、各種施設の有効活用、新たな観光ルートの発掘と発信、統合型リゾート誘致などの取組により、誘客促進と交流人口増加が期待できます。

4 参考資料

P3 参考資料① 参考資料②

1 重点要望事項(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

1 高丘地区への4車線拡幅整備



2 国道276号線の3車線化



P3 参考資料③

1 重点要望事項(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

3 臨海北通接続道路新設



P4 参考資料④ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

1 上下水道設備の充実及び強化 (苫小牧市新水道ビジョン：給水地図)



P4 参考資料⑤ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

2 周文ふ頭岸壁の早期整備



P4 参考資料⑥ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

3 西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備



5 部会別索引

担当部会	分類	No.	要望項目	回答/ 実現性	回答/ 速度	ページ
商業部会	重点	23018	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進	C	C	1
	新規	25001	市内空き店舗情報の積極的な発信 苫小牧市商店街振興組合連合会の調査した情報以外の市内空き店舗情報を積極的に収集し、苫小牧市ホームページ以外にも冊子や機関紙等で情報を発信することを強く要望			14
	継続	22002	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	A	A	16
	継続	20050	ゼロカーボンシティ実現に向けた、商店街等の街路灯・防犯灯入れ替えに伴う補助金等の「ゼロカーボン推進支援補助制度」の創設	A	B	17
	継続	23001	苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画の策定	C	C	17
	継続	23002	苫小牧駅周辺への保育施設の拡充	D	D	17
	継続	23003	バス停留所の環境改善	B	C	17
食品飲食 業部会	重点	23018	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進	C	C	1
	重点	20118	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上 ・JR新千歳空港駅と道南・道東方面の直通化(スルー化)の実現	B	C	3
	新規	25002	夜間における交通利便性の確保 繁華街における交通手段確保への支援			9
	継続	22002	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	A	A	16
	継続	23008	地産地消に取り組む事業者への支援	D	D	16
	継続	20027	多文化共生社会の実現へ向けた施策の推進	A	A	17
	継続	21012	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィス及び教育機関の誘致と移住の促進	C	C	17
	継続	21013	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	B (政策 C (港湾)	B (政策 C (港湾)	17
	継続	21016	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み推進	A	A	17
	継続	20012	介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実 飲食業や一次産業に係る専門教育支援の充実	D	D	20
継続	20105	地産地消の推進にかかる事業への支援	A	A	20	
製造業 部会	重点	21017	苫小牧市役所内へのカーボンニュートラル総合支援窓口(仮称)の設置	C	C	5
	重点	21017	小規模レベルの再生可能エネルギーによるグリーン水素製造装置を配備	C	C	5
	重点	21017	グリーン水素社会に呼応すべく水素ステーションを早急に市内に1か所新設	C	C	5
	重点	21017	新たな公共交通機関として市営バスへのFCV導入	C	C	5
	重点	21017	カーボンニュートラル社会実現に向けたグランドデザインの早期策定及び、市民に対する理解向上に繋がる取組の推進	A	A	5
	重点	21017	公用車のFCV化	C	C	5
	重点	21017	民間投資を促進するFCVトラック・FCVフォークリフト等の導入補助制度の創設	D	D	5
	重点	21017	エネルギーの安定供給確保に係る事業者への補助制度の継続	B	B	5
	重点	21017	苫小牧の地域特性を生かした次世代エネルギー発電施設等の整備並びに送電網に係る事業者への補助制度の創設	C	C	5
	重点	21017	原子力発電の速やかな再稼働に向けた対応を国・道へ強く要望	C	C	5

※製造業部会 次ページに続く

担当部会	分類	No.	要望項目	回答/ 実現性	回答/ 速度	ページ
製造業 部会	重点	25003	次世代デジタル産業の一大集積地に向けた企業誘致の推進			6
	継続	20038	指定管理者に対する地場活用の推進	A	A	16
建設業 部会	重点	23018	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進	C	C	1
	重点	20024	中途採用合同企業説明会の拡充およびとまじョブの有効活用・周知推進	A	A	2
	重点	21008	周文ふ頭を含む苫小牧港東港区浜厚真地区の早期整備	C	C	4
	新規	25004	広域連携(周辺自治体、民間企業・団体、自衛隊)による災害等対策体制の構築及び訓練の実施			7
	新規	23014	津波浸水想定に基づく津波対策の強化(津波危険区域に防潮堤や避難施設等の設置)			7
	継続	20033	公共事業予算枠確保	A	A	16
	継続	20034	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	A	A	16
	継続	20035	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と物価変動に対応した発注金額の適正化	A	A	16
	継続	20036	地元企業への優先発注並びに地元受注率の向上	A	A	16
	継続	20084	北海道開発にかかる枠組みの堅持	A	A	16
	継続	20058	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	B	C	18
	継続	20059	美沢錦岡通の早期整備	B	C	18
	継続	20060	臨海東通の早期整備	B	C	18
	継続	20062	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	C	C	18
	継続	20094	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	B	C	18
	継続	20095	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	B	C	19
	継続	20113	様々な国際大会の開催を視野に入れたアイスアリーナや体育館等のスポーツ施設の国際規格化および周辺の環境整備	B	C	19
	継続	20118	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	B	C	19
サービス 部会	新規	25005	苫小牧西部地域再発展のための交通施策の検討(西部から市内中央・東部へのアクセス向上)			10
	新規	25006	ワーケーション・ブレッジャー等、滞在者の市内観光及び、市内での消費行動への誘導			11
	継続	20058	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	B	C	18
運輸交通 部会	重点	20115	3 災害対応道路として、国道36号線と臨海北通の接続道路新設の検討	D	C	3
	重点	20087	4 通行車両の安全確保のための鹿対策の実施	B	C	3
	重点	20064	1 緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間に位置する高丘地区への4車線拡幅整備の推進(出口付近の4車線化早期整備)	B	C	3
	重点	20064	2 市立病院前交差点の国道276号線(支笏湖通り)の3車線化または歩車分離式信号機の設置	B	B	3
	重点	21008	周文ふ頭を含む苫小牧港東港区浜厚真地区の早期整備	C	C	4
	重点	20092	西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備	C	C	4
	重点	20086	東港区機能進展のためのインフラ整備 ・上下水道設備の充実及び強化	D	D	4
	継続	20010	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)・踏切の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	B	C	18

※運輸交通部会 次ページに続く

担当部会	分類	No.	要望項目	回答/ 実現性	回答/ 速度	ページ
運輸交通 部会	継続	20011	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	B	C	18
	継続	20057	苫小牧停車場若草道線の一方通行の解除に向けた働きかけの推進	B	B	18
	継続	20058	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	B	C	18
	継続	20059	美沢錦岡通の早期整備	B	C	18
	継続	20060	臨海東通の早期整備	B	C	18
	継続	20062	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	C	C	18
	継続	20088	函館税関コンテナ検査施設(X線検査場)の東港区での早期設置	C	C	18
	継続	20091	東港区・西港区のうねり対策に関する関係機関への要請の強化	C	C	18
	継続	20093	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	C	C	18
	継続	20094	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	B	C	18
	継続	20095	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	B	C	19
	継続	20121	明野南通の6車線化及び、道路の整備	C	C	19
	継続	22004	国道36号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置	C	C	19
	継続	23010	物流車両の安全確保のための整備 市道の管理強化 街路灯の増設(一本松北通)、道路標識の整備、新規設置、街路樹や草木の剪定・伐採	A(緑地、維持)C(市民、港湾)	A(緑地、維持)C(市民)D(港湾)	19
	継続	20004	職業訓練法人苫小牧地方職業能力開発協会への協力支援	B	B	20
地域振興 委員会	重点	23018	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進	C	C	1
	重点	20004	旧サンプラザビル・駐車場施設の公費投入も考慮した早期解体	C	C	1
	重点	20003	旧サンプラザビルに関する権利集約の早期実現	C	C	1
	重点	20001	「苫小牧駅周辺ビジョン」に基づいたにぎわい創出事業の推進	C	C	1
	重点	20118	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上 ・JR新千歳空港駅と道南・道東方面の直通化(スルー化)の実現	B	C	3
	新規	25004	広域連携(周辺自治体、民間企業・団体、自衛隊)による災害等対策体制の構築及び訓練の実施			7
	新規	23014	津波浸水想定に基づく津波対策の強化(津波危険区域に防潮堤や避難施設等の設置)			7
	新規	25007	市道柏原開拓道1号線および東部2条通の安全対策実施 ①路面舗装整備 ②拡幅整備(片側2車線化) ③電柱移設(照明灯設置)もしくは街路灯設置			8
	新規	25010	新千歳空港と苫小牧市内を結ぶ道道130号新千歳空港線及び国道36号線の道路整備			8
	継続	20055	勇払前浜地区の整備活用	B	B	17
	継続	20069	新千歳空港の発着枠拡大に対応した受入体制の強化並びに利便性の向上(2次交通アクセスの充実)	B	C	18
	継続	20070	新千歳空港の滑走路延長の早期実現	B	C	18
	継続	20075	苫小牧東部地域の特性を活かし、苫東GXHUB構想の実現にむけ、「エネルギー・デジタル・フード」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援(エネルギー・デジタル・フード・物流・ドローン・自動走行関連事業、地域マイクログリッド事業、CCUS事業)	C	C	18
	継続	20077	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	C	C	18
継続	23013	市道沼ノ端勇払線の安全対策の実施 1. 拡幅整備 2. 路面舗装整備	B	C	19	

担当部会	分類	No.	要望項目	回答/ 実現性	回答/ 速度	ページ
女性会	新規	25008	市内小学校保健室へのエアコン導入			12
	継続	23015	保育・介護環境整備による女性の社会進出推進 介護・保育に関する人材教育支援制度の充実	C	C	20
青年部	新規	25009	緑ヶ丘公園及びハイランドスポーツセンターなど周辺施設群の再評価と 観光資源化 1 緑ヶ丘公園及び周辺施設群の魅力を磨きなおし、市内外へ発信すること 2 滝野すずらん丘陵公園をモデルとした緑ヶ丘公園及び周辺施設群の 観光資源化			13
	継続	23017	ベンチマーク設定による、ふるさと納税への取組改善	A	A	17
	継続	22007	おおぞら園への予算配分増額、人員体制強化など機能拡充への取組	A	A	20
会議所	重点	25011	取引関係において立場の弱い中小・小規模事業者に対する価格転嫁施 策の強化			2
	重点	25010	急激な物価上昇に対する負担軽減策の拡充			2
	重点	21001	事業継続や挑戦する中小・小規模事業者に対する事業継続や経営力強 化に対する支援	A	A	2
	重点	20118	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上 ・JR新千歳空港駅と道南・道東方面の直通化(スルー化)の実現	B	C	3
	重点	25012	苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画並びにゼロカーボンを推 進するために必要な支援の実施			5
	重点	25003	次世代デジタル産業の一大集積地に向けた企業誘致の推進			6
	新規	25011	商地元中小・小規模事業者を支援する商工会議所の人員体制強化			15
	継続	20043	日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店昇格	B	A	16
	継続	20046	苫小牧市中小企業創業サポート事業補助金の拡充	A	B	16
	継続	21009	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	B	C	17
	継続	20007	統合型リゾート誘致活動の継続 北海道と連携したIRコンセプトの策定	D	C	21
	継続	20009	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの推進	D	C	21
	継続	23019	市内大規模イベントへの民間活用の推進	C	C	21

